

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	人間福祉学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導(院) 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導(専院)
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示) 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 講義科目について、ゲストスピーカーによる講義、あるいは現場見学、または学生参加・体験型の授業を1回は実施する。	→実績数。	A	A	A	A	A
2. 3学科とも、学科の目標に合致した実習教育とインターンシップを提供する。	→各学科による報告書の作成。	-	C	A	A	A
3. 講義、演習、実習、インターンシップ、卒業研究を連動させた授業が提供されているか、学生、および教職員による評価を実施する。	→報告書の作成。	-	-	B	B	B

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 本学部は、2009年度～2013年度の中期的な目標を立てて、カリキュラム委員会や実践教育支援室を中心に、ゲストスピーカーによる講義、現場見学、フィールドワークなどアクティブ・ラーニングの実践に努めてきた。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か ゲストスピーカーによる講義、現場見学、学生参加体験型の授業についてはいずれも随時実施しており、リアクションペーパー等からも、それらが学生の学びの促進に寄与していることが分かる。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か アクティブ・ラーニング型の授業を今後も積極的に実施するため、FD委員会やカリキュラム委員会等で継続して検討する。	☆
		その他	☆

目標2	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 本学部は、2009年度～2013年度の中期的な目標を立てて、実践教育支援室を中心に、各学科の目標に合致した実習教育とインターンシップの場を提供してきた。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 3学科ともカリキュラムと連動して実習教育とインターンシップを実施しており、各学科において実施報告書を作成している。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後も効果的な実習教育・インターンシップの実施を続けるため、各学科および実践教育支援室運営委員会等で継続して改善を検討する。	☆
		その他	☆
			☆
目標3	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 本学部は、2009年度～2013年度の中期的な目標を立てて、講義、演習、実習、インターンシップ、卒業研究を連動させた授業を提供し、あわせて学生と教員による評価を行うように努めてきた。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 学生による「授業に関する調査」、またリアクションペーパー等により、概ね達成していることが分かる。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 学生による「授業に関する調査」またはリアクションペーパーによる評価を徹底させていく。	☆
		その他	☆
			☆
備考		☆	